

いわての復興教育

かかわる
いきる
そなえる

平成26年9月30日(火)、東山地域交流センターにおいて、午前中は復興教育講演会を、午後は復興教育担当者研修会を行いました。午前の講演会は、2つの講演を通して復興教育・防災教育の進むべき方向性や人として教師としての姿勢について考える機会となりました。午後の研修会は、講義を通して「いわての復興教育」の目的は「ひとづくり」であることを再確認したり、協議を通して副読本の活用について情報共有したりする機会となりました。

復興教育講演会

希望参加にも関わらず、67名の参加がありました。

講演1「いわての復興教育の推進（震災に学ぶ）」

講師：一関市立川崎中学校 千葉 敏之 校長

★震災当時、大船渡市立越喜来中学校校長として、陣頭指揮にあたったときのことを大変詳しく話して頂きました。

★人として教師としてどのように行動するべきか、たくさんの示唆を頂きました。



<参会者の感想から>

- 当たり前かもしれませんが、子どもの命を守るためにやるべきことをしっかりと準備することが大切であると改めて感じた。
- 「命を大切に」という言葉の意味をとてとてとてとて考えた。
- 子どもたちの命を守ること、地域の中で学校がやるべきこと、人としてどう動けばよいのか考えさせられた。
- 被災した自分たちが甘えることなく「できることは自分たちでやるう」の指導は大変大切だと思った。
- 未来を担う子どもたちの命を守ることは、大人の使命である。
- 学校、校長の役割、その重さを改めて知らされた。心がシャンとなった。
- 教師として復興教育に関わる自分自身を磨き、生徒と共に成長していきたいと思った。

講演2「学校・家庭・地域が連携した防災教育」

講師：岩手県教育委員会事務局学校教育室
森本 晋也 指導主事

★釜石市立釜石東中学校教諭時代のご自身の実践や、県内小中学校の防災教育の取組をたくさん紹介して頂きました。

★実践的な学校安全体制を確立するためのポイントを示して頂きました。

<参会者の感想から>

- 改めて自校のマニュアルや指導計画を見直す必要があると思った。
- 防災教育は、子どもだけ、学校だけでは不足である。家庭や地域を巻き込んで、意識を高めていくことが大切だと思った。
- 「安全共感・協働論」「ソーシャルサポート認知」は、すぐに子ども達の指導に生かしたいと思った。
- 学校安全（学校安全、安全管理等）に努めていくことの重要性を学ぶ貴重な機会となった。
- 帰校したら一関市のハザードマップを確認し、校地内はもちろんのこと、学区内の安全について調べ地域と連携した防災教育を進めたい。
- 教師の指示に従うだけでなく、生徒一人一人が自分で考えて行動する避難訓練を計画してみたい。

復興教育担当者研修会

各校から1名参加の悉皆研修として行いました。

説明「いわての復興教育副読本の活用について」

講師：岩手県教育委員会事務局学校教育室
松葉 寛 首席指導主事兼特命課長

★「いわての復興教育プログラム」作成に携わってきた者としての思いを話して頂きました。

★「いわての復興教育」の理念を再確認するとともに、副読本を活用した実践について、実践例を基に詳しく話して頂きました。

<研修者の感想から>

- 副読本が、熱意と強い思いをもって編集されたものであると感じ、「使わなくちゃ！」という気持ちになった。
- 副読本を活用している学校の紹介があり大変参考になった。

協議「副読本の活用の仕方について」

★「①副読本の活用」と「②活用を推進するための方策」の2点について協議して頂きました。



★副読本活用の具体的なアイデアがたくさん出されました。

「いきる」

- ・各教科、領域の中心教材や補助資料として
- ・「こころのサポート授業」の補助資料として
- ・キャリア教育、進路指導の補助資料として

「かかわる」

- ・各教科、領域の中心教材や補助資料として
- ・学校行事の導入として
- ・交流学习の導入として

「そなえる」

- ・各教科、領域の補助資料として
- ・避難訓練等安全教育の補助資料として
- ・PTA 懇談会の資料として

研修会では、作業用のシートに書き込みながら、「〇ページを〇年生の〇〇の補助資料として」のように、具体的に協議しました。

<研修者の感想から>

- 他校の先生からお話をいただいたことは具体的でとても参考になった。この研修に参加させていただいて担当のやらなければいけないことの自覚が出てきたように感じる。
- 担当として資料を周知し、機会をとらえて先生方に活用を呼びかけていきたいと思う。